

第2回

どこまで信じる？ ネット情報

講師

中橋 雄

今回学ぶこと

人に何かを伝えるには、情報を取捨選択する必要があります。何かを表現するということは、あえて何かを見せないという判断をすることでもあるのです。それだけに、受け手としては、誰が何の目的で発信した情報なのか、その情報に信ぴょう性はあるのか、よく考えて判断する必要があります。また、情報発信する場合には、その影響力を考え、責任をもつことが重要です。インターネットは、誰もが情報発信できるかわりに、トラブルが生じやすい構造をもっています。情報が表現・発信される仕組みやネットの特性を学び、情報の信ぴょう性を判断できる能力や影響力を考えて情報発信する能力を身につけましょう。

番組を見る前に知っておこう

メディアリテラシー、メディアの特性、情報の信憑性、
一次情報、二次情報

メディアリテラシー

- ・メディアの意味と特性を理解した上で、受け手として情報を読み解き、送り手として情報を表現・発信するとともに、メディアのあり方を考え、行動していくことができる能力を**メディアリテラシー**という。
- ・テレビやネットなどの情報に限らず、人が何かを伝えるときには、発信者の価値観や意図が反映されるため、誰が何のために発信した情報なのか読み解くことが重要である。
- ・ネット情報は、閲覧者の関心に応じてカスタマイズされたものが表示されている場合があるため、それが世の中全体の考えだと思わないように気をつける必要がある。

情報の信ぴょう性

- ・ 受け取る情報に間違いや嘘が含まれていないかどうか、よく考えて判断することが大切である。情報を信用できる度合いを情報の**信ぴょう性**という。
- ・ 複数の人が情報をチェックして発信しているマスメディアと比べて、個人や匿名での情報発信ができるインターネット上には、信ぴょう性の低い情報が多いと考えられる。
- ・ ある事柄を直接知っている人や、それを調べた人が発信している情報を**一次情報**といい、それを編集してまとめた情報を**二次情報**という。

情報は多面的

- ・ 発信者には伝えたいと思っていることがあるため、情報に含まれる意図やメッセージを読み解く必要がある。
- ・ 人によって解釈や感じ方が異なることがあるため、どれだけ工夫しても送り手が思ったとおりに受け手が解釈するとは限らない。
- ・ 世の中には、根拠のない情報や、意図的にゆがめられた情報もあることを理解して、解釈する必要がある。

? 情報社会に暮らす1人として自分がすべきことを考えてみよう。

多くの人は、情報を受け取る機会のほうが多く、発信者であることをあまり意識していない。しかし、リツイートすることやニュースサイトにコメントを書くこと、「いいねボタン」を押すことも情報発信であり、社会に影響を与えている。人に迷惑をかけるような情報発信・情報の拡散をしないように気をつける必要がある。その一方、適切に情報を判断して、うまく伝えることができれば人の役に立つことができる環境があることは、素晴らしいことでもある。望ましいメディアと情報社会のあり方を考えて、人のために自分ができていることを考えてみよう。